

宮崎医療センター病院

この春に思うこと
 病院裏の一本桜の満開とともに新しい年度を迎えました。世の企業と同じように、当院も新年度の目標、事業計画を立てますが、予算の編成には毎回頭を悩ませるところです。病院の収入は、患者さんに提供した診察や検査、手術といった医療行為に対して支払われる報酬が主なものです。これは診療報酬と呼ばれ、初診282点、心電図130点、虫垂切除術6、210点というように医療行為ごとに点数が決まっています。患者さんの自己負担分以外は医療保険から支払われます。これらの点数は厚労省によって2年に1度の見直しが行われ、診療報酬改定とされています。スタッフの雇用、医薬品の購入、施設の維持管理など病院の運営に必要な費用は診療報酬によって賄われ、その増減は病院の存続に直接関わってきます。診療報酬改定のたびに私どもは一喜一憂、右往左往するわけです。

また、日本の医療がどうなっていくのかは、どのような改定が行われたかによっても見えてきます。最近では少子超高齢化社会や経済の停滞に備えた医療費削減のための改定が続いており、入院医療を制限し在宅医療へ移行していく方向へ誘導されつつあります。希望を持てる未来を子供たちに残すためには避けら

四季

題字 理事長自筆

春号

平成28年4月11日 発行



宮崎医療センター病院
 宮崎市高松町2-16
 TEL:0985-26-2800
 FAX:0985-27-6811

病院長 田畑 直人

れない施策ではありませんが、今を生きる世代には厳しい医療環境が予想されますので、政府には責任をもって啓蒙をしてもらいたいものです。

今回の診療報酬改定は厳しいものとなりました。いよいよ病院が沙汰されていく時代です。「安全で質の高い医療の提供」と「安定した経営」を両立させていかなければ倒れてしまいます。消化器・肝臓病の専門医療の提供と大学や県病院等の高度急性期病院、地域のかかりつけ医の後方支援を通してこの地域に貢献し続けていくことが当院の使命と考えています。変化を恐れないこと、職員一人一人が、「患者の役に立つ、仲間の役に立つ、社会の役に立つ」という自覚をもって真摯に日々の業務を積み重ねていくこと、これらの先に必ず道は開けると強く思うこの春です。

AB5病棟 お花見

4月5日（火）、AB5病棟に入院されている患者様とご家族と花見をしました。昨年は、天候不良で桜が散ってしまった中での花見でしたが、今年には満開の桜を見ることができました。天気は快晴ではなかったものの、気温は温かく、花見日和でした。病院近隣のお宅に立派な桜の木があり、今年はその桜を見させて頂きました。写真を撮ったりしながら、患者様も嬉しそうです。また、来年の花見が楽しみです。

理念

○私たちは、自分が受けた医療・看護・介護を提供します

基本方針

- ・患者さまの権利と尊厳を大切に、心のこもった医療・看護・介護を提供します
- ・根拠に基づいた説明のできる医療・看護・介護を実践します
- ・全職種による安全で質の高いチーム医療を行います
- ・急性期から在宅医療までを繋ぐ医療・看護・介護を提供します
- ・地域連携に努め、地域包括ケアシステムの発展に貢献します
- ・お互いを信頼し、やりがいと誇りを持てる職場にします



宮崎医療センター病院

★新入職・中途入職者集合教育
 4月1日（金）に新入職研修会を実施しました。研修会参加者は29名で、うち15名が新卒者でした。教育内容は、宮崎医療センター病院で勤務するために必要な基本事項・接遇マナー・感染対策・医療安全・防災について・地域医療等について行いました。長時間にわたる研修会でしたが、入職者の皆さんは真剣に耳を傾けていました。今後の活躍を期待しています！



宮崎大宮高校1年生 介護サービス事業所訪問

2月5日、県立宮崎大宮高校1年生3名が課題研究のため、みやざき総合介護サービス（インタビュー）に来院しました。宮崎大宮高校は、文部科学省のスーパーグローバルハイスクールに指定されており、「オールみやざき」でグローバル・リーダーを育成する教育プログラムの研究開発に取り組んでいます。今回は、「高齢者をサポートする側の苦労や現状を学びたい」との事で、みやざき総合介護サービスの訪問介護を見学されました。訪問介護は大変苦労も多いが、やりがいを感じる仕事であるという長友主任の話に高校生達も真剣に耳を傾けていました。



通所リハビリテーション

通所リハビリテーションでは、営業日の13時30分から14時までレクリエーションを行っています。普段は、歌や体操・脳トレがメインですが、2ヶ月に1回、外部の方からフラダンスを披露して頂いています。利用者の方々もフラダンスに挑戦したり、写真を撮ったりと楽しい時間を過ごしました。今後も様々なレクリエーションの企画をしていきます。

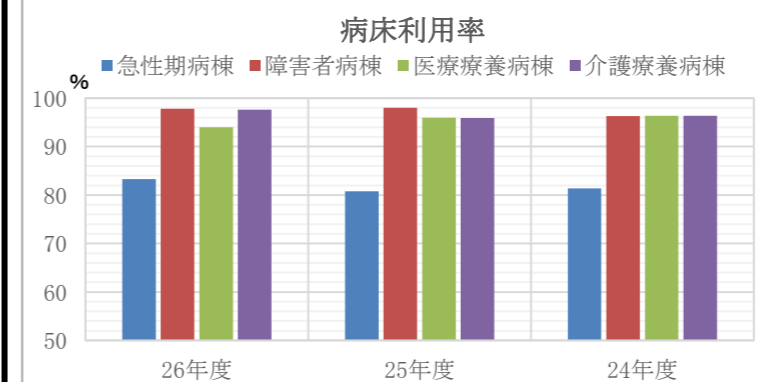


インタビュー終了後は、リハビリテーションセンター、通所リハビリを訪問し、利用者の方々とお話しました。少し緊張された様子でしたが、「なかなか高齢者の方たちと接する機会がないので、貴重な時間になりました。」と喜んで頂くことができました。今回のインタビューで学んだ事を、是非研究に活かしてもらいたいです。

診療情報

<診療評価指標>

◆ 病床利用率
 病床利用率は、病院の経営状態を示す指標の一つであり、健全な経営のためには高い病床利用率が必要条件となる。平成26年度の病床利用率は、急性期病棟及び介護療養病棟では前年度を上回ったが、障害者病棟及び医療療養病棟では前年度を下回った。自院の数値を経年的に比較し、改善の余地を検討、医療の質向上を図ることが重要です。



患者様の権利

- ・患者様は、良質な医療サービスを平等に受ける権利があります
- ・患者様は、人格・意思が尊重され、人間としての尊厳を守られる権利があります
- ・患者様は、自分自身の診療に関する情報の提供を受ける権利があります。また、他の医療機関の医師の意見（セカンドオピニオン）を求める権利があります
- ・患者様は、医療従事者から説明を受けた後に、提案された診療計画などを決定する権利があります
- ・患者様は、プライバシーを尊重される権利があります

【患者の皆様へのお願い】

良質な医療を実現するために、医師をはじめとする医療提供者に対し、ご自身の健康に関する情報をできるだけ正確に提供して下さいようお願い致します。

宮崎医療センター病院

第6回ソフティアを使った「嚥下食レシピ大賞」

アイディア賞 受賞

ニュートリイ株式会社主催する嚥下食レシピ大賞で栄養科津貫主任が考案した、レシピがアイディア賞を受賞しました。全国より様々な嚥下食のレシピが集まり、その中で受賞となりました。

レシピ名 「レタス巻き」

「レタス巻きは宮崎を代表する郷土料理であり、嗜好調査で患者さんがもっとも食べたかった献立でありました。今回のレシピは当院の病院食に留まるだけでなく、県内はもろろん全国の病院・施設でも提供できるように、見た目はもちろん、作業性・栄養価・物性にも配慮しました。当院でも経口摂取の訓練時、レタス巻きが食べられることを目標にされている患者様もおり、宮崎県のふるさとの味を一人でも多くの患者さんに召し上がって頂くことが目標です。



レタス巻き



メディコム 小田さん

今後も試行錯誤しながら、患者様にとって安心して満足して頂ける嚥下食調整食を提供して行きたいです。今回の嚥下食レシピの開発は、津貫主任を筆頭と

して、メディコムの小田さんと研究を重ねてきたそうです。本当におめでとうございませう。

レシピ(1人分)

Table with 5 columns: 食材, g, 水分(だし汁等) mL, ソフティア2or G or U, その他材料等. Rows include 全粥, エビ, カニカマ, レタス, マヨネーズ, のり佃煮(減塩).

作り方
① 全粥に合わせ酢を加え、鍋で85℃以上に加熱し少量のお湯(分量外)で伸ばしたソフティアGを加え、パットに流し冷やし固める。
② 茹でたエビを刻み、カニカマとだし汁とコンクを一緒にミキサーで攪拌する。鍋に移し、ソフティアGを入れ85℃以上に加熱する。エビの形に成形し冷し固める。
③ レタスは水と一緒にミキサーにかけ、鍋に移しソフティアGを入れ85℃以上に加熱し、パットにシート状になるように流し、冷やし固める。
④ のり佃煮も水と一緒にミキサーにかけ、鍋に移しソフティアGを85℃以上に加熱し、パットにシート状になるように流し、冷やし固める。
⑤ 冷やし固まったエビにレタスを包み、全粥にマヨネーズを塗りロール状に巻き、最後にシート状になったのり佃煮で巻く。
⑥ 食べやすい大きさにカットし、盛り付ける。

人事

- 生活習慣病センター長 副院長 安藤好久先生が4月1日付けで、生活習慣病センター長に就任しました。
看護部長交代(4月1日付け)
新 中山 秀昭(前 看護部 次長)
旧 黒木 和代(退職)
地域連携室 副室長)
地域連携室長交代(4月1日付け)
新 勝本 弘(整形外科 副部長)
旧 田畑 直人(病院長)

春野菜を使ったメニュー

栄養科 永吉 花絵

- <春野菜のパンキッシュ>
① 食パンの耳に沿って中をスプーン等で押しつぶし、くぼみを作る
② お好きな野菜やベーコンなどを適度な大きさに切って、バターで炒める
③ ポウルに卵1個、牛乳大さじ2、塩コショウ・コンソメを適量入れ、混ぜ合わせる
④ くぼみを作った食パンに炒めた具を入れ、その上から③を流し入れる
⑤ あれば、ミックスチーズを適量のせ、アルミホイルをかぶせ、オーブントースター等で約10~15分焼き色がつくまで焼けば出来上がり!



- <さや豆と生ハムもれモン風味サラダ>
① スナッフエンドウ・さやエンドウのへた筋を取り除く
② エンドウがかかぶる位の水を入れて、塩を入れ、沸騰したらエンドウを茹でます
③ 水気を切って皿に盛り、食べやすくちぎった生ハムを加え、しモン汁(ポッカレモン可)をかけ出来上がり
※お好みで塩コショウで味を調整してもOK



病院機能評価訪問審査を終えて

総務課 東 信次

当院は、去る1月27日及び28日に日本医療機能評価機構による三回目の病院機能評価認定更新審査(主たる機能:慢性期病院、副機能:一般病院2)を受審しました。約90項目に及ぶ審査項目を4名のサーベイヤーが二日間に渡って病院全般にわたる現状を調査・評価しました。

特に、今回は症例トレース型のケアプロセスの評価が重視され、A B 3、4病棟及びC 4 5 6病棟で典型的な症例について、1患者の入院から退院までの経過をたどりながらチーム医療の対応、医療安全や感染制御等について担当医師、看護師、介護職副診療部担当者、担当MSW、医療安全管理室等の関係者にサーベイヤーが質問しながら実際の診療状況やサービスの質改善への取り組み等を評価・確認しました。日頃これだいいと思っていたことやサービスについてサーベイヤーからいろいろ指摘や助言がありました。患者さんに信頼され、安心と信頼をもって受診される病院であるために、第三者による評価の意義や継続した改善の重要性を感じさせられた訪問審査でした。

審査を終えての講評で、各部門ごとに多くの所見を頂きました。これも当院がよりよい病院となるべく評価してもらったのだと認識し、その結果を無にする事なく各部門はもろろん病院全体として改善すべきは改善し、よりよい病院を目指していきたいものです。

部署紹介



放射線科

C館の一番奥にあるCT室・一般撮影室・X線TVの3部屋が当センターの放射線科になります。こ

病棟部長交代(4月1日付け)
C 4 5 6病棟
新 乙守 篤(前 地域連携室 看護師長)
旧 川添 華寿美(異動)

A B 3病棟
新 川添 華寿美(前 C 4 5 6病棟 看護師長)
旧 松山 麻美(退職)

昇格(課長職以上)
生活習慣病センター
循環器内科 医師 矢野 理子

看護師長 加治屋 志穂子(A B 4病棟)

みやざき訪問看護ステーション
看護部長 甲田 真里子

みやざき総合介護サービス
居宅介護事業所 科長 今吉 美和子

研修会

★感染対策研修会

3月29日、30日に院内感染対策研修会を開催しました。感染対策についての研修会は、医療法の中で年に2回行うことが義務付けられており、今回の研修会は今年度最後の感染研修となりました。

内容は「消毒薬の適正使用と手指衛生」についてで、感染制御認定薬剤師である薬剤科の並副科長に行ってもらいました。研修会で学んだことを是非、現場や日常生活で生かしてもらいたいです。



検査としては、健康診断などが行われるような胸のレントゲンや胃の透視、整形分野の骨の撮影、そして消化器肝臓病の精密検査となるCTやTV室での造影検査、飲み込みの様子など嚥下検査なども行っています。

治療としては、内視鏡を使った消化管の治療やカテーテルを使用した肝臓癌の治療等が行われていますが、特に肝臓癌に対するカテーテル治療の件数は九州内でもトップ5に入るほどです。

また、今年二月にはTV室の透視撮影装置が最新のデジタル装置に更新されました。鮮明な画像が得られ、これからの検査・治療に大いに力を発揮していくと思われまます。

当放射線科の特徴は技師の半分が女性という事。女性ならではの目線で患者様への対応の工夫していますので、検査の時など、「男の人だとちょっと恥ずかしい」

みたいな場合にも気軽に声掛け下さい。いろいろと対応いたします。これからも患者様を第一に考え、関係部署との連携も大事に、患者様に優しい部署を追求して行きたいと思っております。



放射線科 スタッフ